

しかはま自然観察会

のらえもん

『人も 自然も みんなともだち !』 No.13

代表責任者 古高 利男

☎270-1132

我孫子市 湖北台 2-14-7

☎09072759890

2013, 2, 26 (火)

第13回活動「冬の野鳥観察 その2」と動物観察

・・・鳥ではなく、パンダや象の観察になりました！・・・

*日 時：2013年2月16日 (土)

*場 所：上野動物園

*参加者：家族18

内 訳	大 人	24人
	小学生	25人
	幼 児	9人
	合 計	58人



* 活動の様子：

とても風の強い日でした。

そんな中、入り口前に、のらえもんの家族がどんどん集まってきました。冷たい風が吹いていても、元気いっぱいな子どもたち。そんな子どもたちといっしょのお父さん・お母さんたちはあったかそうでした。寒そうにしていたのは、一人・・・だけでした。

- 久しぶりに、倉田さんが元気な姿をみせてくれました。元気な姿をみると、こちらまでうれしくなりますね。
- 梅北圭士くん、稲川翔大くん、青島拓紀くんたちは、それぞれ学校はちがうのに、おともだちになって動物を見たり、待ち時間には「しりとりに」ゲームをしていました。みていて、ほほえましく思いました。
のらえもんの目指したい姿・光景が、ここにありました。
- まずは、記念撮影
パンダのぬいぐるみもいっしょに、ハイパチリ。
カメラマンは、いつもの山口さんです。
- 最初は、日本野鳥館に入り、日本で見られる野鳥の観察。ガラスで守られているので、メジロやヤマガラはのんびりとエサを食べていました。人も、逃げない野鳥をみて、大きな声で話したり・動いたり。お互いに、安心していただける分、緊張感がなく、醍醐味に欠けるようです。12月の新芝川でみたカモの時のほうが、充実感があったように思いました。
充実感を求めて、25年度の野鳥観察には渡良瀬遊水池へ行く予定をたてています。2014年2月22日(土)です。風は冷たい、手はかじかむ、静かに近づかないと鳥は逃げる、鳥は待っていてくれない、そんな状況のなかでのバードウォッチングに、ぜひ、挑戦してみましよう。
- 「パンダ園がすいてるー！」と、声がかかりました。みんなでパンダを見ることにしました。
メスのパンダは、太い木の枝に横たわって、足や脇腹をしきりにかいていました。虫がいたのでしょうか？

オスのパンダは、こちらを見て「よっこいしょ」とすわり、立てかけてあった竹を左手でとり、食べ始めました。竹の真ん中をおいしそうにかじり始めました。硬い竹は、とても柔らかそうにみえました。そのうち、なんと肛門を開き、バナナのような黄色いウンチをはじめたのです。ウンチをしながら、なおも竹を美味しそうに食べていました。臭いまで伝わってくるようでした。大サービスだったのでしょ。よほど親しくない、肛門なんか、恥ずかしくてみせませんよね？その後の新聞報道によると、「パンダに赤ちゃんができそうなので、見学はできません。」ということでした。

元気な赤ちゃんが生まれたとき、また、みにいきましょうね。

○ かわいそうな象

象の園舎の日のよく当たる東側に、上野動物園で亡くなった動物たちのお墓があります。そのお墓のなかで、戦争のさなか、人の手によって餓死させられた4頭の象が眠っています。エサを欲しくて、最後の力をしぼって鼻と足を高くあげて芸をしたということでした。戦争は、動物の命も奪う結果になったようです。ただ「かわいそう」とだけ言ってはいられない思いになったのは、のらえもんだけでしょうか？

○ シロクマさんの遊泳

ペンギンのエサやりショーを期待していったのに、ペンギンはいません。替わって、シロクマが、この寒い2月の季節に、なんと泳いでいました。あの大きな体が浮いて、涼しそうな顔をしていました。

今、旭山動物園を見習って、動物にやさしい、そして人は多様な方向から見られるように、作り直しているところが多いようです。

○ ふれあい動物園

モノレールの下のところ、ひつじ・やぎをはじめネズミ・モルモット・カモ・チャボ・ウサギを触らせてくれるコーナーがありました。子どもたちは大喜びでした。ヤギに紙を食べさせていた人、ひつじに木の葉を食べさせていた人、ウンチを掃除していた人、みんな目的意識をしっかりとっていましたね。

○ は虫類園

オオサンショウウオ（ハザキ）はデカイ！

ワニは、まるで化石のように、口を開けたまま動きませんでした。

魚の祖先である肺魚には、足のようなひれがありました。

○ 不忍池でみられた鳥

キンクロハジロ、ホシハジロ、オナガガモ、オオバン、ハクチョウ、バン、ゴイサギ、スズメ、メジロ、カラス、ドバト（カワラバト）

* ハスの間を飛び交うメジロは明るい緑色でした。我が家に来るメジロはくすんだ色をしています
が……。

*今回は、親と子の生き生き感想は、ありません。